# 子宮頸ガンと私

ＭＩＳＡＫＯ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

## 注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
子宮頸ガンと私

【Ｎコード】
Ｎ９４０８Ｃ

【作者名】
ＭＩＳＡＫＯ

【あらすじ】
ガン告知を受けたひとりの女性の心と体の葛藤

# 子宮頸ガンとの戦い

【ガン検診・告知】夏、ガン発病。
病名は、子宮頸ガン２人目の子供を出産し、育児と主人の仕事の手伝いなどして日々過ごしていた。
一年ぐらい前より生理日でもない時に
きれいな血が少し下着に付く事があった毎月でもなく、すぐ止まるし、痛みもない、「寝不足？」「育児疲れ？」軽く受け流していた。ガン検診など話を聞くたび、他人事のように思いながらも、どこか気になっていた。そんな折り、市の定期検診があった近所の医院で検診を受けた。「結果は一週間ぐらいで通知が届きます」と説明をうけ、私は「これで安心」と家に帰ったしかし、通知が届くはずが４日後、午後３時電話が鳴った。医院からだった。
「今日来て下さい」内容を聞いても
「来院して下さい」の一点張り。
仕方なく行ってみたら、『子宮頸ガン』です。医者は簡単に私に告知した。
その後、病状の説明を淡々とされる。
「血液検査のマーカも高くないですし、初期でしょうから、部分切除で大丈夫でしょうが、一応説明しときますね」と
医者は最悪の場合の説明を始めた。
説明中、実感がわかない。『ガン…？』『私が？何…？』
自分の置かれている状況が理解出来なかった。多分、病気は何かしら苦痛を伴うものと決めつけていた私には、痛みも無い今の体が病んでいるとは信じられなかった。だから「たいした事ない」と思ってしまった。
しかし、夫に伝えると号泣し動揺を露わにした。

【術前検査】

総合病院に紹介され検査が始まった。
結果はやはり初期と診断され、第２段階の検査、子宮組織を切り取り病巣の組織検査。結果は１８０度
変わり「病状は中期まで進行してます」私は血液検査に表れない体質であると判明した。
マーカは０・５と正常値。そんな事があるのか血液検査で『ガン』がわからないなんて結局、ガンは子宮内を縦に進行していた「最悪、足付け根の部分のリンパ節への転移も予想される」と医師の説明は日を追うごとに変わった。
ここまで私は一度も涙を流す事は無かった。だが入院前の検査で泌尿器科での
膀胱の機能検査を終えた時、泌尿器科の診察室で医師の前に座った途端に、涙が止まらなかった…
医師は「膀胱の機能は正常です」と説明してくれただけなのに、涙が止まらなかった。診察室を出て支払いを済ませ、駐車場へ行き自宅へ着くまで、ずっと涙は止まらなかった。

【手術】
手術は午後１時から４時の予定。
子宮全摘、両足付け根のリンパ節約３０個摘出。
夫は午後１２時過ぎ作業着で病室に表れた「頑張れよ」と言って２０分程一緒にいたが手術室へ運ばれた気が付くともう病室に戻っていた。
顔には酸素マスク
背中にはモルヒネの点滴、腕にも別の点滴、もう片方の腕に血圧測定機。
時計は５時だった。看護士の呼びかけが遠くに聞こえ、ベッドの足元に夫が見えた。夫が「終わったぞ」「俺、行くわ」と言った。
彼は看護士に「お願いします」と頭を下げ病室を出て行ってしまった。

まだ麻酔が効いていて意識がはっきりしていないのと、全身がガタガタ震える中私は病室に一人になった。私は手術を受けた当夜病室に一人になった。

少し開いている窓を閉める事も、エアコンを調整する事も、ティッシュを取る事も出来ず、定期的に見回りに来てくれる看護士だけを待った信じられない自分の状況に家族ってなんなのか…。

虚しさを全身に感じ彼（夫）を、この人ならと信じた自分に腹が立った。

次の日の朝、夫は病室に顔を出し5分程いて仕事に行った。面会謝絶の病室で

窓から見える電柱に時おり鳥が来るのと空の曇と木々の風に揺れる風景を一日中ひとり見て、あとは痛みとの戦いだったそんな日が4日過ぎ5日目やっとベッドから降りて病室内にあるトイレに行く事を許された。しかし歩くのもままならない、しかも少しでも体を横にしたりするとお腹の中がガラガラと動き痛みも尋常（じんじょう）ではない。結局、夫は一度も付き添うことはなかった。私はとうとう夫に爆発した。「何故一度も付き添ってくれないの？」「一番そばに居て欲しい時なんよ」と私は詰め寄った。

すると夫の口から信じられない言葉が出た。「気付かなかった」と一言、がく然として何も言えなくなった。この人は

ガンと聞いた時、あんなにショックを受けてたけど分かってなかったんだ。

そうだったんだ…

夫が小さく見えた。

【抗がん剤治療】

【放射線　治療】

手術前の術後の治療は点滴による抗がん剤治療のみの予定だった。が、手術で採ったリンパ節から陽性反応が出てしまった。そう、『転移』していた…。急遽治療方針が変更された放射線治療と抗がん剤治療、しかし入院している病院に放射線治療の設備がない結局私

は入院したまま大学病院へ毎日通院する事になった。土日を除いて毎日、午前中大学病院へ行き、戻って入院先で午後から抗がん剤の点滴を受ける。
これを２５回。
始めの一週間は対して体に違和感はなかった、ただ血液検査では白血球がドンドン減っていた。が
二週間め放射線治療から戻って入院先の病院玄関に降り立った瞬間、痙攣、震えめまいと一気に襲ってきた。又不思議な事も起きた、放射線治療１０回過ぎた頃
お尻の上、腰の辺りに毛が生えてきた！陰部の毛は抜け落ちて無いのに、人間の体は不思議です。
抗がん剤治療の方では、よく髪の毛が抜けてしまうと言いますが、幸い私はほとんど抜けずにあった但し、血管はボロボロで後半には使える血管がなかった。
せっかく残してもらえた卵巣も放射線治療により死滅状態でダメになりこれが
後に後遺症の一つとして表れる事となる

## ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9408c/

子宮頸ガンと私

2010年10月28日04時26分発行